



# 富山県立総合衛生学院 閉院式



日時：令和4年3月13日(日) 10:00～

会場：総合衛生学院 講堂 (富山県立大学 富山キャンパス)

# 記念式典

## 式次第

開式の辞

国歌斉唱

式辞

知事告辞

来賓挨拶

来賓紹介

学生代表挨拶

スライド上映 「70年の思い出」

校歌斉唱

学院旗返還

閉院宣言

閉式の辞

学院長 稲村睦子

富山県知事 新田八朗

富山県議会議長 五十嵐 務

富山県看護協会会長 松原直美

保健学科(51回生) 上川莉穂



富山県立総合衛生学院 校歌

作詞 和田 徳一

作曲 小沢慎一郎

一 学びの窓の 朝夕に

雪の立山 仰ぎつつ

理想は高く 清らかに

看護の道を 究めんと

集い来りて 学ぶなる

若きわれらに 誇りあり

二 生老病死の 人の世に

幸あれかしと 祈りつつ

誠のこころ 一すじに

福祉の道に 尽さんと

励むわれらの 使命感

若き血潮は たぎるなり



# ご挨拶

富山県知事 新田 八 朗



本学院は、1951（昭和26）年に私立不二越病院附属甲種看護婦養成所を引き継ぎ、富山県立中央病院附属高等看護学院として開設して以来、保健学科、助産学科の設置等を経て、70年余の長きにわたり、7,100余名の看護職員を育成、輩出してきました。

本学院で学ばれた皆様は、人々への深い関心と洞察力・判断力・倫理観を備えた健康の担い手として、保健・医療・福祉等の幅広い分野で活躍され、昨今の新型コロナウイルス感染症による厳しい状況のなかでも、誇りと使命感を持ち、各所で献身的にご尽力いただいています。

ここに、これまで本学院を支えてこられた歴代学院長をはじめ教職員の皆様のご熱意とご尽力、卒業生の皆様のご活躍、並びに保護者の皆様をはじめ関係の方々の温かいご支援に心から敬意を表し、感謝申し上げます。

卒業生の皆様の知識や技能、実務で積み重ねた経験、そして、健康と福祉の増進に対する熱い思いは、かけがえのない本県の財産です。今後とも、現場で活躍される看護職員として、また、後進の指導者として、本学院で学んだ誇りを胸に、その力を大いに発揮いただきますようお願い申し上げます。

本学院の看護職員育成機能は、県立大学看護学部へ引き継がれます。県としましては、今後とも、将来を担う人材を育成し、医療の高度化・専門化、地域包括ケアの推進など、多様で専門性の高いニーズに応えていけるよう取り組んでまいります。

結びに、これまでの本学院の発展と看護教育の充実にご尽力を賜りました皆様に重ねて深く感謝申し上げます。

# ご挨拶

学院長 稲村 睦子



この度、令和4年3月31日を以て設立71年の歴史を有する富山県立総合衛生学院を閉院することになりました。

富山県立中央病院附属高等看護学院として19年間、富山県立総合衛生学院として52年間に7,174人の有能な看護師、保健師、助産師、養護教諭を送り出してきました。卒業生達は、現在も多数が、母子・保健医療福祉、保健医療福祉教育の各分野で活躍し、大きな役割を果たしています。

その看護学科は、昭和26年に保健婦助産婦看護婦法に基づき、私立不二越病院附属甲種看護婦養成所から継承し、富山県立中央病院附属高等看護学院として設立されました。昭和39年に保健婦専門学院を併設し、昭和40年に看護学科に夜間課程を新設しました。昭和46年には、富山県立総合衛生学院と改称し、昭和49年に助産学科を新設、昭和50年に看護学科を第一看護学科と第二看護学科に分科し、4学科制としました。昭和51年には学校教育法に基づく専修学校となり、平成20年に第二看護学科を閉科し3学科制となりました。令和3年に看護学科が閉科となり、令和4年3月に保健学科、助産学科を閉科し、総合衛生学院は閉院となります。

当学院は人間理解と生命尊重の精神を基盤とし、学生の能力・個性を大切に、人々への深い関心と洞察力・判断力・倫理観を備えた健康の担い手として、県民に寄与できる看護職を育成することを理念としてきました。そして、教員は、学院の初代教務主任で県立中央病院の初代総婦長でもあった、ナイチンゲール記章を受賞された牧田きせ先生の「卒業生を沢山社会に送り出しその活動により社会を明るくしたい。」との願いを継承してきました。

また、教育目標として、看護学科は、看護の実践活動を通して保健医療福祉に貢献する能力をもった人材を育成する。保健学科は、保健師並びに養護教諭として公衆衛生看護活動を主体的に実践できる資質と能力を持ち、地域社会に貢献する人材を育成する。助産学科は、助産の実践活動を通して自律した能力を持ち、母子や家族の健康及び地域社会に貢献する人材を育成する。ことを掲げ、教員は、目標を達成するために専門知識・技術の修得を目指して教育してきました。これまで、学生一人ひとりを熱い思いで慈しみ育ててこられた教員の皆さん、ありがとうございました。本校への貢献に厚く御礼申し上げます。

卒業生は、日々の業務の中で看護専門職や教育者として必要な厳しい躰・マナーなども学んできました。学校生活における多くの課題に対して、共に努力する仲間と支え合い協力し、一致団結して取り組んだ充実した学校生活だった。学院が母校であることを誇りに思い、しっかり自分の道を歩んでいきたいと述べています。当学院の卒業生としての誇りと自信は一人ひとりの大きな礎になっているものと確信しています。

そして、昨今の社会・医療は数々の問題を抱え、看護に求められることも多岐に亘り、看護職者の自律が求められています。本校で看護の原点を学んだ卒業生の皆様が保健医療福祉・教育の発展のため、職務に精進し、さらに活躍されることを心から願っております。

最後になりましたが、長きにわたり本学院の運営に携わっていただきました多くの方々、ご指導・ご支援を賜りました皆様に心より感謝申し上げます。

# 閉院によせて

看護学科同窓会 会長 宮原 百合子

このたび、富山県立総合衛生学院の閉院を迎えるにあたり、看護学科同窓会を代表してご挨拶を申し上げます。

富山県総合衛生学院看護学科は、令和3年3月に最後の卒業生である50回生が卒業し長い歴史の幕を閉じました。富山県立総合衛生学院は、昭和26年に私立不二越病院附属甲種看護婦養成所を継承し、富山県立中央病院附属高等看護学院として設立され、昭和46年に富山県立総合衛生学院と改称し現在に至っております。

そして、看護学科同窓会は昭和31年に発足し、昭和・平成・令和の時代と共に歴史を刻んでまいりました。卒業生は5,200余名であり、同窓生は医療の現場のみならず保健・福祉・教育分野など地域社会のあらゆる場所で、疾病の回復だけでなく予防と健康づくりの視点をもって活躍され、県内外はもとより、海外でも活動されています。

看護学科閉科の際には、看護学科同窓生は、皆心一つにして、本学院の歴史を誇りとして胸に刻んで進んでいくことを確認いたしました。この思いは一年を経過した今も変わることはありません。

今、世の中はこれまで誰も予想しなかった新しい時代となりました。このような状況にあっても、私達、富山県立総合衛生学院で看護職を志した者は、しっかりと前を向いてたゆまぬ努力を続け歩んでまいります。白い雪道に残る“轍（わだち）”のように。

保健学科同窓会 会長 福井 貴実子

富山県立総合衛生学院の閉院を迎えるにあたり、保健学科同窓会を代表いたしまして一言ご挨拶を申し上げます。

保健学科同窓会は、昭和39年に開院した富山県立保健婦専門学院と、その後、昭和46年に併合した富山県立総合衛生学院保健学科の卒業生1,250余名からなります。保健学科の修業年限は1年間であるため、先輩や後輩と学生生活を過ごすことはありませんが、保健師と養護教諭の資格取得のための過密なカリキュラムを切磋琢磨して学び、やり遂げた経験や保健学科の卒業生である誇りが同窓生の強いつながりとなっています。

同窓生は学院で学んだ公衆衛生看護を糧に、「人々の健康を守る、命を守る」専門職として社会の変化や人々の多様性を敏感に感知し、保健、医療、福祉、教育の各分野において地域の特性や健康課題、新興感染症などの健康危機管理などに応じた多岐にわたる活躍をしています。

学院の閉院に伴い保健学科同窓会は解散することとなりました。感慨深いものがありますが、学院が築いてきた伝統と同窓会が培ってきた志は、富山県立大学看護学部の保健師を養成する専攻科に継承されていくことと期待しています。

終わりに、富山県立総合衛生学院をはじめ、ご指導ご支援をいただいた多くの皆様に深く感謝申し上げますとともに、皆様のご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げます。

# 閉院によせて

助産学科同窓会 会長 五本友子

このたび、富山県立総合衛生学院の閉院を迎えるにあたり、助産学科同窓会を代表してご挨拶を申し上げます。

富山県立総合衛生学院助産学科の同窓会は昭和49年3月に発足し、昭和・平成・令和と時代が移り変わり、47周年を迎えました。令和4年3月末の48回生の卒業をもって、助産学科同窓会の会員数は658名となりましたが、その歴史に幕を下ろすこととなります。

今回、閉科に際し、各回生に思い出を寄せてもらいました。どの回生も閉科・閉院をととても残念に思いつつ、助産学科で学んだ1年を思い起こし、密度が濃く、大変なことも良い思い出として、懐かしく思い返す機会になっているようでした。学び舎がなくなってしまうことはとても悲しく、抛り所がない空虚感に苛まれそうではありますが、それぞれの心の中に、人生において忘れることの出来ない思い出として残り続けることと思います。

総合衛生学院助産学科は、富山県において助産師育成の場となり、優秀な人材を社会に送り出し続けてこられました。現在は、少子化に追い打ちがかかり、産後うつや虐待などの増加も懸念されるところです。今一度、基本に立ち戻ると、「助産師」とは、厚生労働大臣の免許を受けて、助産又は妊婦、じょく婦若しくは新生児の保健指導を行うことを業とする女子をいいます。(保健師助産師看護師法)このような時代だからこそ、私達助産師は、免許を有することに誇りをもち、妊娠・出産・子育てに関わるあらゆる場面で支えとなり、対象に寄り添う役割を果たしていかなければならないと改めて感じています。助産師としての大切な魂を教えてくださいました学科長、担任の先生、講師の方々など関係する皆様に感謝の意を表したいと思います。ありがとうございました。

学生代表 保健学科(51回生) 上川莉穂

富山県立総合衛生学院の閉院を迎えるにあたり、最後の卒業生である保健学科51回生、助産学科48回生を代表してご挨拶を申し上げます。

私達は、公衆衛生看護活動に貢献できる質の高い保健師・養護教諭を目指して保健学科に、そして、いのちを慈しむ心と確かな実践力を備えた助産師を目指して助産学科に入学しました。看護基礎教育を基盤とした1年間の上乘せ教育では、高度な知識・技術の習得に加え、自身の意識や態度など専門職業人として成長できるように努力を重ね、学ぶことの厳しさと喜びを感じることができました。

保健学科では養護実習や公衆衛生看護活動実習、産業保健実習に取り組み、助産学科では分娩介助実習や助産院での実習に取り組みますが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により実習内容が変更になるなどの影響がありました。実習では住民や児童生徒、妊産婦等の方々に対してより良い支援を展開する難しさに直面しましたが、実習指導者の方々から熱心なご指導をいただき、自身の支援を振り返ることにより成長することができました。また、課題や研究、国家試験などいくつもの困難がありましたが、仲間と励まし合い、先生方の温かいご指導に勇気をいただき乗り越えることができました。

これから私達は、先輩方が築かれた伝統ある富山県立総合衛生学院の卒業生としての誇りを胸に、看護の心を大切に人々と真摯に向き合い、命を守り社会の期待に応える専門職になれるよう日々精進し、保健医療福祉教育のさらなる向上に貢献したいと思います。

# 富山県立総合衛生学院沿革

- 昭和26年 私立不二越病院附属甲種看護婦養成所を継承し、富山県立中央病院附属高等看護学院として開設
- 昭和39年 富山県立保健婦専門学院を開設
- 昭和40年 高等看護学院に第二部として夜間課程を新設し、看護婦養成3年課程を第一部とした
- 昭和46年 保健婦専門学院を併合して富山県立総合衛生学院とし、保健学科、看護学科の2学科制とした  
高等看護学院第一部を第一看護学科、第二部を第二看護学科に改称した
- 昭和49年 助産学科を新設し、保健学科、助産学科及び看護学科の3学科制とした
- 昭和50年 看護学科を第一看護学科、第二看護学科にし、4学科制とした
- 昭和51年 学校教育法に基づく専修学校の専門課程に格付けされた
- 平成20年 第二看護学科を閉科し、第一看護学科を看護学科に改称、3学科制とした
- 平成30年 看護学科学生募集停止
- 令和3年 看護学科 閉科 保健学科、助産学科学生募集停止
- 令和4年 保健学科、助産学科 閉科 富山県立総合衛生学院 閉院

## 教育理念

富山県立総合衛生学院は、人間理解と生命尊重の精神を基盤とし、学生一人ひとりの能力・個性を大切に、人々への深い関心と洞察力・判断力・倫理観を備えた健康の担い手として、県民に寄与できる看護職を育成する。

## 教育目標

保健師、助産師、看護師、養護教諭の養成機関として、教育理念に基づき、それぞれ必要な知識及び技術を修得させるとともに、人々の健康と福祉の増進に貢献できる有能な人材を育成する。

- ◆保健学科 保健師並びに養護教諭としての専門知識及び技術を修得し、地域や学校等において公衆衛生看護活動を主体的に実践できる資質と能力及び国際的視野をもち、地域社会に貢献する人材を育成する。
- ◆助産学科 助産師として必要な専門知識及び技術を修得し、助産の実践活動を通して自律した能力を持ち、母子や家族の健康及び地域社会に貢献する人材を育成する。
- ◆看護学科 看護師として必要な専門知識及び技術を修得し、看護の実践を通して保健医療福祉に貢献する能力をもった人材を育成する。

## 養成課程

| 学 科  | 定 員  | 修業年限 | 取得可能な資格・免許   |
|------|------|------|--|
| 保健学科 | 25人  | 1年   | ・保健師国家試験受験資格<br>・養護教諭1種免許<br>・労働安全衛生法による衛生管理者免許  |
| 助産学科 | 15人  | 1年   | ・助産師国家試験受験資格<br>・受胎調節実地指導員資格   |
| 看護学科 | 100人 | 3年   | ・専門士（医療専門課程）の称号<br>・看護師国家試験受験資格<br>・保健師・助産師・養護教諭養成機関受験資格<br>・大学編入学試験受験資格<br>・社会保険労務士試験受験資格 |

# 看護学科（第一・第二看護学科）思い出の写真



富山県立中央病院附属高等看護学院校舎



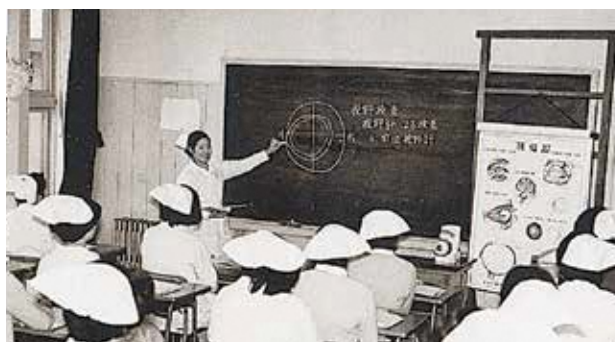
昭年26年  
初任教務主任 牧田きせ先生



昭和28年 独立学院舎竣工



牧田先生と記念撮影



真剣に学ぶ講義の様子



昭和40年度卒業式 卒業生の凛とした姿



手術室実習



新生児室実習



昭和46年 保健師専門学院を併合し、  
富山県立総合衛生学院となる 新校舎竣工





昭和50年度 学院祭



第二看護学科 手術室実習



第一看護学科 研修旅行



第二看護学科 立山登山



平成20年 3月 第二看護学科閉科式



厳かな灯の儀「みまもる心」を合唱



平成21年 校舎改修工事竣工



ボディメカニクスを活用し  
ベッドメイキングの演習



張り切って病棟実習に向かう学生達



現在の総合衛生学院



令和3年3月 看護学科閉科式

# 保健学科 思い出の写真



沐浴実習を行う保健婦専門学校1期生



16ミリフィルム映写機の操作技術資格取得講習



19期生 家庭訪問ロールプレイ



家庭訪問実習の場面



養護実習での身体計測・保健教育の場面



公衆衛生看護活動実習での保健指導・健康教育の場面



保健体育で金剛堂山・立山へ登山



日本公衆衛生学会に参加

# 助産学科 思い出の写真



分娩介助母体モデルとともに



思い出の教室にて



妊婦健康診査演習



分娩介助演習



産科病棟指導者とともに



産科病棟分娩室にて



初代学科長 中家壽美先生



藤沢ハナ先生と



真剣な眼差しで…分娩介助演習



受胎調節実地指導員講習



母子保健家族計画全国大会  
参加の風景



岐阜県の桜井ナースングセンター実習



精神鍛錬の立山登山



母親教室の実施風景



吉橋先生と



福井県の瀧澤助産院実習



岡本喜代子先生との課外学習



48回生 助産学科最後の学生

## 「富山県立総合衛生学院の軌跡」コーナーのご案内

閉院にあたり、富山県立大学富山キャンパス（図書館棟1階）に『富山県立総合衛生学院の軌跡』のコーナーを設置いたしました。卒業生の皆様には、学生時代の懐かしい日々を思い出していただけるよう、各学科で演習に使用し受け継がれてきた物品やユニフォームなど展示しております。是非お立ち寄りください。



場所：富山県立大学富山キャンパス図書館棟1階

## 記念碑の建立

昭和26年の創設以来71年にわたり多数の看護職を輩出してきた歴史と建学の精神が込められた校歌、校章を後世に残すために、県立大学富山キャンパスのキャンパスストリートに記念碑を設置しました。看護学科、保健学科、助産学科の同窓会からもご寄付を頂き、現在の地に学院があった証として建立することができました。卒業生の皆様には、訪れて学生時代を懐かしく思い出していただければと思います。

